愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	日栄 一真	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

音や音楽は、私たちの生活において欠かせない存在となり、単に聴くだけでなく、情報を伝える手段やコミュニケーションの ツールとして、日常生活のさまざまな場面で活用されるようになりました。 この授業では、自分達の好きな音楽を能動的に深掘りし、テクノロジーを活用しながら、社会の中での音楽の利用価値を探求し、新たな可能性を見出していきます。☒ 特別な音楽知識は必要としませんが、音楽や音に関心や興味があることを前提として受講してください。 後期で総合演習IIの受講を希望する学生は、前期でこの授業を受講してください。
また、社会連携として、学外でのイベントを運営する場合もあ るため、土日を含め、授業時間以外での活動がある場合があります。☒ 授業の受講には、スマートフォンと、PC(Win or Mac) が必要になりますので、必ず持参してください。 ゲスト講師によるレクチャーが入る場合があります。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	制作演習のほか、他のイベントと連携した課外授業を行う場合があります。 シラバスの内容は状況に合わせて順番が入れ替わる場合や、内容が変わる可能性があります。 社会連携の一環として、学外イベントの運営に携わる場合があり、授業時間外や土日などに活動が発生することがあり、交通費が自己負担になる場合があります。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、課題、レポートの提出方法など	□
第2回	音楽とテクノロジー	音楽の創作や配信、演奏スタイルを進化させるテクノロジー	□
第3回	コンピューターと音楽	コンピューターによる、作曲や演奏、音響合成、分析などによる、音楽表現の拡張	□
第4回	音楽情報１	音楽情報のデジタル化とコンピュータの役割	□
第5回	音楽情報２	音楽情報のデジタル化により広がる、音楽の幅や音楽の定義	□
第6回	エレクトロニック音楽の多様性	デジタルテクノロジーを用いた音楽とその制作手法について	□
第7回	デジタルテクノロジーとライブパフォーマンス	多様化する、デジタルテクノロジーを用いたライブパフォーマンスについて	□
第8回	音楽と映像の連携	映像における音の重要性	□
第9回	音楽とネットワーク	フィジカルなメディアからストリーミングサービスまで、権利関係など。	□
第10回	制作・研究1	制作・研究のほか、イベントなどが入る場合があります。	□
第11回	制作・研究2	同上	□
第12回	制作・研究3	同上	□
第13回	制作・研究4	同上	□
第14回	制作・研究5	同上	□
第15回	まとめ	半期のまとめ	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

各自授業前に書籍、インターネットなどを用いて予習をし（２時間程度）、授業後に授業で配布した資料を用いて各自講義レポートをまとめる （２時間程度）。特に、制作課題は、授業以外の時間で制作する必要があります。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は授業時間内に発表する時間を設け、その場でフィードバックを行います。また、毎授業後に簡単な５分ほどで完了するレポートを実施

します、このレポートでの質問に対し必要に応じて授業時間内に回答します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	デジタルテクノロジーを用いて音を制作、編集、配信する技術を習得し、音とテクノロジーの関係について理解を深める。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	音を多面的に捉え、人の営みの中で音がどのような意味を持つのかを考察し、社会に対してのアウトプットを提案できる能力を育む。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	音や音楽を通して、地域とつながり地域社会の活性化・発展に貢献できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験は、課題制作を課しこれにより評価を行います。
その他の加点は毎授業後に所要時間５分ほどのレポートを実施しこれを平常点とし評価します。このレポートを提出しない場合、平常点の加点がなくなるので注意してください

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		